

眉山活性化委員会（第2回）

議事録（要約）

開催日時 令和7年2月19日（水） 午前10時から

開催場所 徳島市役所8階 庁議室

議 事 (1) 開会

(2) 会長挨拶

(3) びざんミーティング及び眉山活性化専門部会の報告について

(4) 眉山活性化基本方針（素案）の策定について

(5) その他

(6) 閉会

出席者・委員8名（山中会長、青木委員、近藤委員、酒井委員、内藤委員、長谷川委員、濱田氏〔斎藤委員代理〕、渡辺委員）

・事務局他

【会議の内容】

（会長）

ご質問やご意見を伺いたい。

（委員）

本当に盛り沢山なプランになっている。徳島市だけで取り組んでできるものではないので、いかに民間活力を生かしていくか、市民と共に作り上げていくかということが鍵になると思われる。

資料2の68ページに目指すべき眉山の未来を掲げており、令和17年度に目標来園者数が60万人で、滞在時間が2時間ということになっている。事業スケジュールを見ると、令和11年度に施設が完成、令和12年度から利活用開始としているため、結構タイトなスケジュールかと思われる。どのように民間と取り組んでいくことを想定されているか、現時点で実行への第一歩としてどのようなことをされるのか。

今回ミーティングリーダーとしてびざんミーティングに参加して、眉山をよく知っている方が眉山説明してくれた。そのため、歴史や意味を理解しながら眉山を回っているとすごく楽しかった。デジタル技術を活かしながら、いろいろな国の人たちに説明できるような取り組みをすると良いと思う。デジタル技術の活用に関して、現時点でどのようなプランがあるか。

(事務局)

民間事業者との連携については、まずは来年度実証実験をやるという形で考えている。内容としては音楽イベント、キャンプイベントを念頭に置きながら、できるだけ眉山の活性化につながるようなイベントを抽出し、連携しながらやっていきたいと考えている。

デジタル技術についても、委員から指摘があった通り、民間事業者の力を借りなければ徳島市だけではできないものではない。現時点で具体的に申し上げることはできないが、民間事業者等が眉山でのデジタルイベント等に興味を抱いているという話も聞いているので、具体的に説明できる段階になれば公表しながら進めさせていただきたい。

(委員)

資料2の68ページについて、今後目指すべき眉山の未来として「みんなが楽しむ」ということで多様な人々、世代を超えて楽しむ眉山を掲げられている。他にも外国人、インバウンドにも対応して、サインを多言語表記するなどの説明があった。今後は、海外の方も見据えて整備していく方針は賛成である。

68ページの目標滞在時間が2時間とあるが、キャンプ場も整備するということで、車やロープウェイ等で来園した短期滞在者のみの時間で考えるのか、それともキャンプ場やホテル宿泊者の宿泊時間も含めての目標になるのか。

(事務局)

現状は、展望広場と西側エリアが分断されており、眉山海月がある西側エリアまで足を運んでもらえていないのが課題であるため、できるだけ解消するような整備をしたいと考えている。東側から西側まで約1キロ距離があり、歩くだけでも20分程度かかる。遊具やビューポイントの整備などで、くつろげる場所を周遊してもらいながら、目標総滞在時間を2時間として、皆様に楽しんでいただけるコンセプトで進めていきたい。

(委員)

提案としてキャンプ場は非常にいいなと思っているが、気軽にできるバーベキューなども想定されているのか。

(事務局)

バーベキューは1つのコンテンツであり、来年度の実証実験の中で、炊事棟などの整備の要望も意見が多いようであれば、検討していきたい。

(委員)

46ページの言語別の口コミを見ると、英語、中国語、韓国語の口コミがある。県においても、香港便、韓国便が昨年末に相次いで就航している。それぞれ週3便で、多くの方が今後も訪れることが見込まれる。そのため、やはり英語、中国語、韓国語という3か国語について、サインとしても多言語表記対応していく必要があると思っている。

ちなみに、眉山ロープウェイはキャッシュレスなどの支払いに関してはどのような状況か。

(事務局)

眉山ロープウェイについては、別部局で対応しているため、調査後、後日報告させていただく。

(会長)

滞在時間について、平均値に関する議論になるが、この手の統計で平均値を使うと、はずれ値が出てきて、それが平均値を大きく変えてしまう。中央値について議論した方が後々使いやすいものになると思われる。

もう一つ、滞在者は別に考えた方が良く、眉山海月に泊まっている人の数字を入れるかどうかは悩ましい。滞在者数を増やしたいのであれば、宿泊者数やキャンプ場の利用者数を別途考えておいた方がいいかもしれない。

大きな目標としては、総滞在時間として、現状は40万人で平均滞在時間を30分とすると、20万時間となる。目標の滞在時間を達成すると、4倍くらいになるイメージで想定されているので、大きな目標値と想定する。調査も大変であるが、統計の仕方を検討しておいた方が良いと思われる。

(委員)

データに関する話の中で後半、民間活力について、指定管理やPFIの話もあったが、今の段階でどのようなイメージなのか。何か例があれば、分かる範囲で教えてほしい。

(事務局)

民間活力のイメージについて、来年度実証実験で、様々なイベントを開催する。その中で、民間が今後運営できそうなものについては、サウンディング型市場調査を改めて実施することも検討している。想定としては、カフェ、キャンプ場などの収益施設が挙げられる。昨年度サウンディング型市場調査を行ったが、その際には、施設について具体的な部分まで示せていなかった。今回具体的な話を進める中で、どのような民間事業者に手を挙げてもらえるか把握する意味でも、調査の実施は必要だと考えている。

(委員)

68ページに来園者数の目標値がある。現在40.8万人、目標60万人の設定がある。60万人になった根拠があれば教えてほしい。

(事務局)

目標値設定については、基本的にはターゲットごとに1.5倍くらいの増加を見込んでいく。今回示したプランを実行した場合に、それぞれのターゲットが、どれくらい増えるかを

想定して、ターゲットごとに検討を行ったうえで60万人と設定している。

(委員)

積み上げ形式ということで理解した。40.8万人を12か月で割ったら1月あたり34,000人、1日あたりは1,133人。同じく60万人で想定したら1か月あたり50,000人、1日あたりは1,666人。

ざっくり1日400人以上増える見込みであるが、400人増やすのは結構大変である。1つ1つターゲットごとに設定したのであれば、1か月あたりでもいいので、1日1,600人を集客するためのイメージについて議論してみてもどうか。例えば日本人で何人、インバウンドで増加分を考慮して何人、あるいは、香港、台湾、韓国、タイなども増えることを想定して、数値が変動することも有りうるが、積み上げのイメージである。

難しいと思うが、公園内のエリア間の人の移動についても、仮説を作ることは必要になってくるのではないかと思われる。

(会長)

この数字はなかなか悩ましいが、60万というと渦の道ができたときがそれくらいであった。狭いところだと大混雑が起きることも有り得るが、眉山は広いので、分散して登山の人たちも山頂まで来ずに、いろんなところで遊んでくれば、それくらいで収まると思われる。ダブルカウントしている可能性もあるが、来園者がどのような活動をしてくれるかということになると思う。滞在を増やしてもらう、いろんな形で遊んでもらう、時間を増やしてもらおうというところを大きな目標にしておいた方がいいと思われる。

(委員)

滞在時間が0.5時間から2時間で4倍、4倍についても、イメージ想定も必要と思われる。具体的に、どこでどのくらい使って総滞在時間が2時間になるかを検討した方がいい。

(会長)

調べていただいたレインボーラインでも、30分くらいしか滞在できないところだったのが、テラス、カフェ、いろいろできて、総滞在時間が1時間から1時間半と長くなってきているという話であり、1時間くらいは比較的簡単に目指せると思われる。そんなにアクティビティがなくても景色を楽しんで、1時間以上滞在してくれるという状況にできると思われる。総滞在時間が2時間となると、もう少し何か必要であるため、何らかの状況を作らないと2時間にはならない。広いので全部歩けば2時間くらいかかるかもしれないが、それをどのように誘導するかが重要である。

(事務局)

眉山公園は広いので、ただ単に来るだけではなく、各ビューポイントで、休憩して頂き、家族連れで来ていただいた方には、遊具でも遊んで頂けるような整備がしたい。

眉山公園は自然が豊かなので、自然を楽しみながらただ単に歩くだけではなく、それぞれのビューポイントで景色を楽しみながら滞在して頂ければと考えている。その中で、総滞在時間2時間というところをクリアできるように検討する。

(委員)

広く市民の意見を募り、コンサル任せにすることなく、市が自ら事務局をやっけてこられたという部分は評価できる。

提示されたプランでは大きな投資が発生する部分があり、実現できるかどうかはこれからの議論になると思う。費用対効果を固めることと、スキーム作りが重要になる。民間の事業を市がサポートするという形をいかに作れるかがポイントだ。市関係者による専門部会での調整が必要になるが、施設整備の方向性をしっかりと検討していただけたらと思う。

眉山山頂に来る人が増えると車も増えることが想定されるが、駐車スペースをどう確保していくのかについて質問したい。また、眉山山頂でテナントを運営することについては、これまでは厳しかったのではないかと思うが、収支をどのように確保していくかについて質問させていただきたい。

(事務局)

限られたスペースの中で駐車場を設けることはなかなか厳しい状況ではあるが、眉山海月の少し西にスペースがあり、その有効活用について検討する。少しでも駐車スペースが確保できないか継続して検討する。

公園緑地課としては、いきなり大きなテナントを立てるということはせず、初めはキッチンカーや仮設で開始し、来園者にくつろいで利用していただく状況をまず図り、収支状況を見つつ、大きなテナントに向けて段階的に進めていきたい。いきなり大きな箱ものを作るのではなく、まずは、収支状況をしっかりと把握しながらやっていきたいと考えている。

(会長)

民間活力導入で悩ましいのはそこである。レストランやカフェがあって運営を民間がやるというのは公園に多いが、これくらいの大きさになってくると、テーマパークの規模となってくる。全体のプロデュースをする民間がいて、活動していく形にしないと、調整やいろんなプロデュースが難しい。PRなど全体的なことをしていかななくてはならない。

全体的にプロデュースやPRをやってもらうところが出てきてくれるか、それが一番鍵になると思っている。阿波おどり会館、眉山ロープウェイ、眉山山頂まで包括的に運営する会社を作ってしまうこともあり得ると思う。全体的にプロデュースして、収益を上げ、全体の魅力を上げていく事例が出てきている。

(事務局)

その点は重要と考えている。眉山を目標像に向かって進めていくには、トータルプロデュースは大きな課題である。来年度、実証実験をやっていく中で、トータルプロデュースにつ

いても検討を進めたい。

(委員)

インバウンドについては、去年と今年で動向が変わっており、11月は中国、香港、12月は香港、中国という順番だったが、年明けから就航の関係上、一番が韓国、二番が香港となった。直行便の影響がかなり出てきており、宿泊に繋がっている。

モビリティの導入について、運営、営業時間、料金については決まっているか。

(事務局)

現状は、大きな枠組みとして、料金を取るかどうか、どういった運営をしていくかどうかは示していないが、重要なポイントと思っており、今後詰めていきたいと思っている。運営時間についても今後の検討課題であると考えている。

(会長)

自動運転は、補助金を活用して、実験的にやってみようという流れがある。うまくいけば、コストを安くしてできるかもしれないが、今のところ補助を入れないと収支的に成り立たない。料金は、取っていたり、無料であったりするが、実験的なものは取らない方が多い。

ゴルフカート系で速度20キロ未満のグリーンスローモビリティと言われるものは、各地で使われるようになって来ている。高度な運転制御も必要ない。ゴルフ場と同じような形で運用すれば、そんなに問題はないと思われるので、かなり実用化してくると思う。しかし、これだけで収益化は難しいので、眉山各所で収益が見込まれることを前提にカートを導入するという形になると思われる。

(事務局)

事例として「えひめこどもの城」では、園内で運用を図っており、料金を徴収したうえで3台から5台で自動運転電動カートが連なって走る形をとっている。導入コストと難易度はそれほど高くない。眉山公園の場合は、駐車場の入り口部分が市道であり、市道に出すかどうかでハードルの高さが大きく変わる。そこも含めて検討していきたい。

(会長)

遊園地の乗り物と公道を走る乗り物では、安全規定が全く異なる。

(委員)

検討結果がどうなるのかが気になるが、今後、検討結果、調査結果はどのような形で公表していくのか。

(事務局)

今回で終わりではなく、活性化委員会は来年以降も継続して開催できればと考えている。

検討結果については、しっかりと委員会の中で報告して公表させていただきたい。

(委員)

ハード面のスケジュールが最後に記載されているが、ソフト面が大切になってくるかと思う。ソフトの面が一番検討すべき項目だと思う。特に具体的に眉山をどう利用するのかという点を市民に示すのは大切なのではないかと思う。

(会長)

眉山の価値は、眺望、景観なので、それを生かした簡単な工作物を作りながら、社会実験で小規模なイベントの開催をしてはどうか。そうすれば、これを作れば人が来るというのが見えてくる可能性がある。多少なりとも整備と合わせたイベントを始めていくのはよいと思われるので今後検討してみてもどうか。

短期的であれば、市民参加でやってしまうという手もあり、登山道の展望台をNPOが作った事例等もある。眺望を生かしたような社会実験の実施を推奨する。

(委員)

市民を対象にしたイベントで、小規模であっても参加してもらえるものが重要だと思う。ハード整備と一体となったイベントという、伐採した木を使ったイベントを推奨する。市民の方に来ていただいて、眉山がどういうところかを紹介する機会づくりが重要である。公園は緑を楽しむ空間なので、それを含めて考えていけばよいのではないか。眉山のように中心市街地に緑が近くてもそれを楽しむすべがない、分からないというのが市民の実感としてあると思う。イベント開催して最初は少人数であっても、機会を重ねれば累積人数は大きくなる。そのような形のイベントを眉山に落とし込むことはできないか。

72ページの自由記述が市民の本音だと思う。眉山が、子どもがお年寄りになるまで身近に寄れる場所として書いてあるが、次世代にわたって繋げられるような眉山づくりの精神を実証実験に組み込んでいただけたらと思う。

(会長)

継続的なスタイルのイベントの方が眉山には合致しているような気がする。

(事務局)

普段使いとしての眉山、観光客に来ていただける公園としての眉山の両方が重要であると考えている。指定管理者と公園緑地課が連携して企画していく。

(委員)

県はウォークアブルな空間づくりに取り組んでおり、居心地がよくて歩きたくなるようなまちづくりを提案している。新町西地区の再開発が進んでいるが、徳島駅と眉山を結ぶ新町橋通りの道路空間の一体的な活用に向けて、ニーズやポテンシャルの調査に取り組んでい

きたいと考えている。徳島市内で宿泊する人は、阿波おどり会館だけでなく、今後、眉山の魅力も上げて頂き、市内から眉山への一体的な魅力アップに協力していきたい。

以上